



YMCA

月刊 TheYMCA 付録
編集・発行 / 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7番地
大阪青年 発行: 錦織一郎 編集: 大阪YMCA広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2005 Jan 1
Feb 2

No. 569

2004年度大阪YMCA年間聖句
「強く生きなさい。何事も愛をもって行いなさい。」(コリントの信徒への手紙 16章13-14節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

ボランティア精神をくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。

すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
いのちを尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。

世界の人びとと力を合わせ、環境、人類、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

VISION2010を目指して

2005年 新春座談会

VISION2010を目指して



活動に求められる力強い歩み

VISION2010を目指して日々活動を続けている大阪YMCA。2005年を迎えた今、YMCAがすべての人びとにとって「チェンジングエージェンシー」となるために、その活動や関わり方を再確認し、より力強く歩んでいくことが求められています。

YMCA活動を通して新たな発見をし、様々な活動を担われている方々にお話をお聞きしました。
【座談会参加者】池永聡志さん(東YMCAボランティアリーダー)、只野準一さん(大阪YMCA常議員)、松下広子さん(大阪YMCA常議員)、錦織一郎さん(大阪YMCA総主事)

小さなきっかけから始まったYMCA活動

池永: 大学1年生の時に学校で先輩に声をかけられ、キャンプの写真を見たのがきっかけです。それまではYのことは何も知り

夏休みに阿南キャンプに行っていました。大学に入った時、その時のリーダーがYMCA高槻地域センター(高槻YMCAの前身)のスタッフになつていてのを知り、懐かしくて会いに行つた時に誘われてリーダーになりました。それで以降、プランクはありますが5年間リーダーをしていました。同じプログラムを月に2回組むほど、野外プログラムが盛んで、毎週どこかでプログラムがあるくらい、本当に活発に活動していました。

その後、子育てでYMCAと離れてしまいましたが、子どもたちがYMCAのプログラムに参加している時に、お母さん方を対象とした勉強会を企画することに関わったのが、また新しいYMCAとの出会いになり、人形劇ゼペットのグループ活動をスタートさせることになりました。ゼペットから新しい子グループを創ったので、もういつ辞めてもいいと思つたのですが、今年で30年続いています。子どもは2人もYMCAのリーダーになり、今は孫が土佐堀YMCAの野外活動に参加しています。

池永: 大学1年生の時に学校で先輩に声をかけられ、キャンプの写真を見たのがきっかけです。それまではYのことは何も知り

その後、子育てでYMCAと離れてしまいましたが、子どもたちがYMCAのプログラムに参加している時に、お母さん方を対象とした勉強会を企画することに関わったのが、また新しいYMCAとの出会いになり、人形劇ゼペットのグループ活動をスタートさせることになりました。ゼペットから新しい子グループを創ったので、もういつ辞めてもいいと思つたのですが、今年で30年続いています。子どもは2人もYMCAのリーダーになり、今は孫が土佐堀YMCAの野外活動に参加しています。

「ミャンマースタディーツアー」より

立ちはたがり、YMCAでの活動を再開しました。松下: 高校に入学した時、各クラブの勧誘があつて、英語も教えますと言われたことから聖書研究クラブに入部したんです。後にハイ・Yと名称

錦織: 何となく過ごしていた大学時代に勧められて自宅近くにあった堺YMCAに向いたのがきっかけでした。最初はサッカー指導をしていました。本当に何気ない気持ちでスタートしたのに、最初に出会ったスタッフが、心地よく受け入れてくれたと思います。

地の塩

昨年、宿願叶つて屋久島を訪問した。紀元前から生き続けてきた屋久杉の巨木を自分の目で観て、それを取り囲む自然林の息吹を体験するためである。樹

年齢7千年を超えと言われる縄文杉まで登る時間も無かつたが、千メートル以上の高地で樹齢3千年の紀元杉をはじめ、千年以上も生き続けている屋久杉の巨木に触れることができた。江戸時代に屋根材の平木等を作り、年貢として納めるため屋久杉が伐採されたが、伐採や倒木で光を得て、樹齢数百年の若木も育っている。屋久杉の巨木を見上げると、杉の枝葉の他に、年間数ミリの降雨で樹木の上に落ちた種子が芽を出すいわゆる「着生」した別種の若木が育っている。巨木の梢にナナカマドやヒカゲツツジ、低い幹にはヤマグルマやサクラツツジ等20種類近い若木が育っている。紀元杉にも春にはサクラツツジ、夏にはヤクシマシャクナゲの花、秋にはナナカマドの紅葉など、1本の巨木から四季折々の彩りを観ることができそうである。大阪YMCAは創設以来120年余りで、屋久杉の寿命とは比べものにならないが、日本のボランティア運動としては古く、多くの先輩の遺産を継承し、大きい組織に発展してきた。古い屋久杉の枝に新しい若木が天の恵みである水と光を十分受けて育つように、YMCA運動に永く関わってきた会員の実績の上に、新しい若い会員が天からの恵みを十分受けて自立し、老いも若きも共生してYMCA運動を発展させると共に、昨年の台風、地震により被害を受けた人々の再生を年の初めに当たって祈りたい。(勝)